

癌患者に合併する脳梗塞の病態解析

1. 研究の対象

平成 20 年 1 月～平成 33 年 3 月に大阪国際がんセンターで治療中の担癌患者で、脳梗塞を発症した方を対象とし、頭部 MRI 等で脳梗塞の確定診断が得られている方を全例対象とする。

2. 研究目的・方法

研究目的：臨床の現場において、担癌患者における脳卒中の合併をしばしば経験する。脳梗塞は麻痺や失語といった後遺症を残す頻度が高く、患者の ADL を大きく低下させ、その後の癌治療に悪影響を及ぼすことも多い。したがって、担癌患者の脳梗塞発症リスクを評価しその予防を行うことは癌治療において非常に重要である。悪性腫瘍は血液凝固亢進を伴うことが知られている。このような血液凝固異常に併発した脳梗塞は Trousseau 症候群と呼ばれ、非細菌性血栓性心内膜炎 (non-bacterial thrombotic endocarditis ; NBTE) による心原性脳塞栓症であることが多いと報告されている。Trousseau 症候群では血液検査で D-dimer が高値を示し、婦人科腫瘍に多いことがすでに示されている。また、肺癌術後に生じた脳梗塞の解析では、肺静脈の断端に血栓が生じ、塞栓を引き起こすことが最近報告され、周術期の脳梗塞合併症の原因として注目されている。このように、担癌患者に合併する脳梗塞の病因はさまざまであり、源疾患、手術内容等によりその発生率、予防方法が異なることが予想される。また、近年では患者の高齢化に伴い加齢や生活習慣病に伴う動脈硬化性疾患を合併する担癌患者が増加する傾向にあり、担癌患者に合併する脳梗塞という病態がより一層複雑化しているものと思われる。本研究では、担癌患者に合併した脳梗塞合併症例を後方視的に解析し、その発生頻度と病因を解析することで、脳梗塞発症のリスクファクターならびに病態を明らかにすることが目的である。

研究期間：平成 29 年 2 月 13 日～平成 34 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ情報、画像情報 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 研究所病院共同研究連携室

室長 片山 和宏

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

Fax：06-6945-1107

e-mail：kbyori01@mc.pref.osaka.jp

(お問い合わせは、Fax、e-mail 又は郵送でお願いいたします。)

また、氏名及び診察券に記載されているカルテ番号を必ず記載するようにして下さい。)

研究責任者：

大阪国際がんセンター脳神経外科 木下 学

以上